



関空島

WEATHER TOPICS

10月号
平成23年
(2011年)

ご利用の前に
かんくうじまウエザートピックス
関空島 WEATHER TOPICSの内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでできます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の9月の気象

天気概況

9月は、はじめ台風第12号、20日前後には台風第15号の影響で、まとまった雨となりましたが、その他は高気圧に覆われて概ね晴れました。

上旬： 期間の前半は、台風第12号の影響で雨や雷雨となり、後半は、高気圧に覆われて概ね晴れました。

1日から5日にかけて、台風第12号が、四国沖から四国・中国地方を北上し日本海に進みました。この台風はゆっくり北上したため、台風周辺の湿った空気が長時間にわたって流れ込み、西日本から北日本の山沿いを中心に記録的な大雨になり、紀伊半島では総雨量（8月30日17時以降）が1,000mmを超え、甚大な被害が発生しました。

関空島では、1日は雷雨となりRVRが750mまで低下、2日は最大瞬間風速NE43ktを観測、3日は雨に伴いVISが1500mまで低下、5日も雨に伴いCIGが1200ftまで低下しました。

中旬： 期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れましたが、後半は、台風第15号や西日本に停滞していた秋雨前線の影響で、雨や雷雨となる日がありました。

19日から20日にかけては、台風第15号の周辺から秋雨前線へ流れ込む湿った空気の影響で雷雨となり、20日は、VISが800m、RVRも600m、CIGは1000ftまで低下しました。

下旬： 期間のはじめ、台風第15号の影響で雨となりました。中頃からは高気圧が北に偏って日本付近に張り出したため、高気圧の縁辺を回る暖湿気により、雲の多い日が続きました。

21日は、台風第15号が、紀伊半島沖を通過し、昼過ぎに浜松市付近に上陸、夜にかけて東日本～東北地方南部に進みました。

関空島には昼頃最接近し、雨は夕方まで続き、VISが1800m、RVRでも750mまで低下し、最大風速NNW31kt、最大瞬間風速N41ktを観測しました。

VIS (Visibility) について

VIS (Visibility) は「卓越視程」といい、観測場所から目視により地平（水平）の全方向について視程を観測したとき、地平の半分（180度）又はそれ以上の範囲に共通した最大水平視程です。

選定した視程目標から、気象視程（地表付近の空を背景とした黒ずんだ目標を肉眼で認め得る最大距離）を観測します。夜間の視程目標には、集光されない白色の灯火を選んでいきます。

VISは、5,000m以下は100m刻み、5,000mを超え10km未満は1,000m刻み、10km以上は5km刻みで観測・通報します。

以下に、航空気象通報式と場内形式について、通報例を示します。

最小値：0m = 0000（場内形式：0000M）

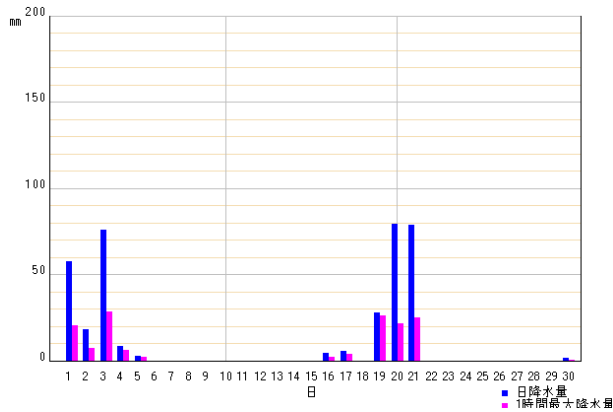
5,000m以下：800m = 0800（場内形式：0800M）

5,000mを超え10km未満：6,000m = 6000（場内形式：6KM）

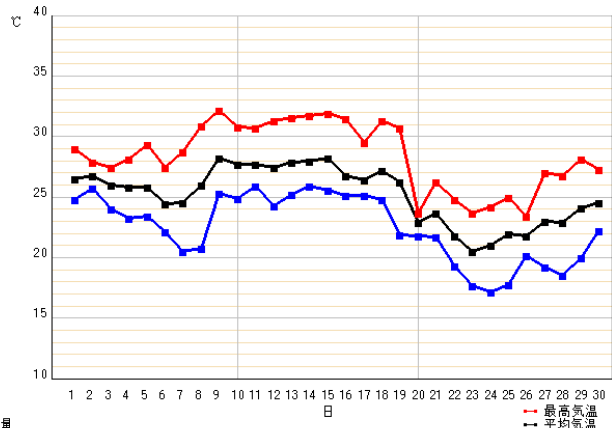
10km以上：15km = 9999（10km以上はすべて9999、場内形式：15KM）

《降水量》 月降水量は359.0mm(平年 86.4mm)でした。日降水量の最大は20日の79.0mm、最大1時間降水量は3日の28.5mm、最大10分間降水量は19日の8.5mmでした。(第1図)

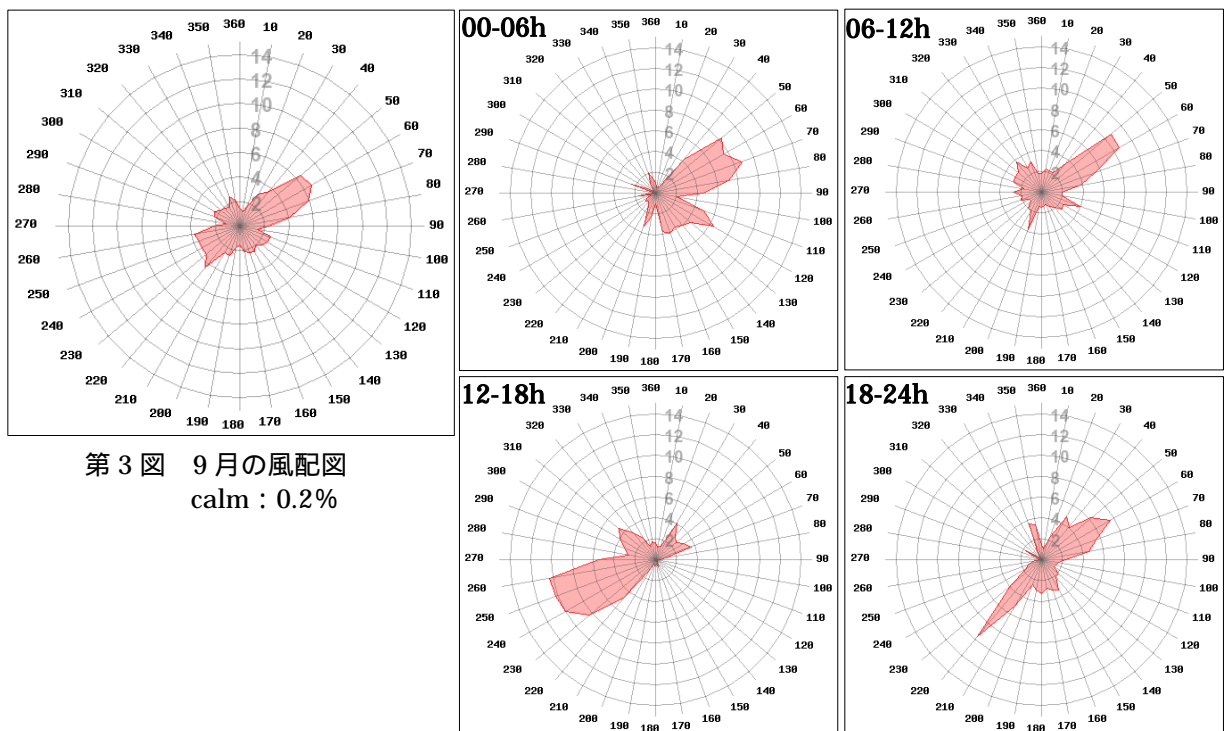
《気温》 月平均気温は25.2 (平年 25.6)でした。日最高気温の平均は28.4 (平年 29.3)、最高は9日の32.2 でした。日最低気温の平均は22.5度(平年 22.9)、最低は24日の17.2 でした。(第2図)



第1図 2011年9月の日別降水量



第2図 2011年9月の日別気温

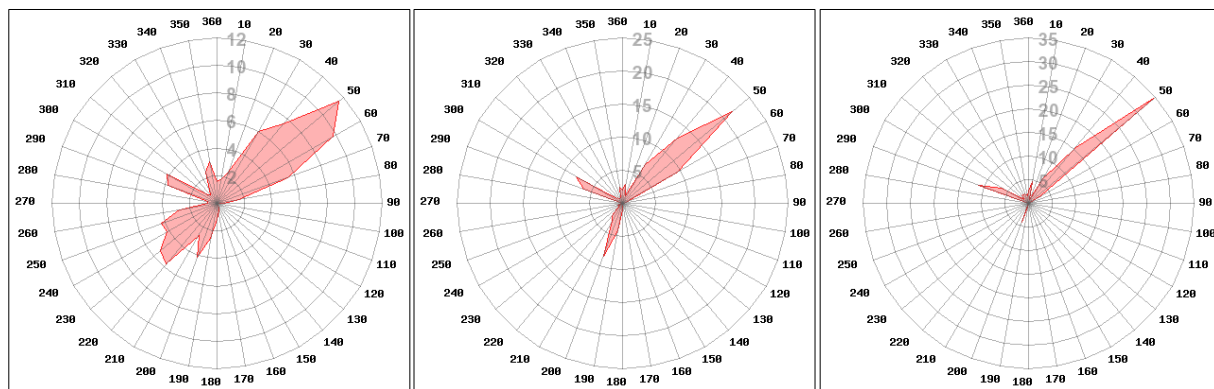


第3図 9月の風配図
calm : 0.2%

第4図 9月の6時間毎の時間別風配図
calm 00-06 : 0.6% 06-12 : 0.2%
12-18 : 0.0% 18-24 : 0.0%

《風向風速》 月全体の風向は、北東～東北東の風が多く、次いで南西～西南西の風が多くなりました。時間帯別に見ると、00～06 時では北東～東北東の風、06～12 時でも北東～東北東の風、12～18 時では南西～西南西の風、18～24 時では南西の風が多くなっています。

風速は、日最大風速が 10kt 以上の日数が 28 日、そのうち 15kt 以上が 15 日、20kt 以上が 7 日ありました。風速別に見ると、10kt 以上、15kt 以上、20kt 以上の何れも北東の風が多くなっています。



第 5 図 9 月の風速別風配図 (左から 10kt 以上、15kt 以上、20kt 以上)

《極値の更新》 今月の極値の更新状況を第 1 表に示します。表中、橙色のセルが今月更新した記録です。このうち、日降水量は通年でも 7、8、10 位、月降水量は通年でも多い方から 1 位の記録となりました (桃色のセル)。

第1表 関空島の9月の極値

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
日降水量 (mm)	79.0 (2011/9/20)	78.5 (2011/9/21)	75.5 (2011/9/3)	72.0 (2004/9/29)	57.5 (2011/9/1)	47.0 (2003/9/25)	40.0 (2003/9/24)	31.0 (2008/9/21)	28.5 (2008/9/30)	28.0 (2011/9/19)
日最大10分間降水量(mm)	9.5 (2010/9/23)	8.5 (2011/9/19)	7.5 (2011/9/20)	7.0 (2011/9/1)	6.5 (2011/9/3)	6.0 (2011/9/21)	4.0 (2010/9/16)	3.5 (2010/9/28)	3.0 (2009/9/29)	2.5 (2011/9/4)
日最大1時間降水量(mm)	28.5 (2011/9/3)	27.0 (2008/9/21)	26.0 (2011/9/19)	25.0 (2011/9/21)	22.0 (2003/9/25)	21.5 (2011/9/20)	20.5 (2011/9/1)	19.0 (2004/9/29)	18.0 (2003/9/24)	15.5 (2010/9/23)
月降水量の多い方から(mm)	359.0 (2011/9)	132.0 (2003/9)	127.0 (2004/9)	95.0 (2008/9)	88.0 (2006/9)	81.0 (2010/9)	70.0 (2005/9)	49.5 (2009/9)	49.0 (2007/9)	///
月降水量の少ない方から(mm)	49.0 (2007/9)	49.5 (2009/9)	70.0 (2005/9)	81.0 (2010/9)	88.0 (2006/9)	95.0 (2008/9)	127.0 (2004/9)	132.0 (2003/9)	359.0 (2011/9)	///
日最低気温の低い方から()	15.9 (2008/9/29)	16.7 (2008/9/30)	16.9 (2003/9/30)	17.2 (2011/9/24)	17.7 (2011/9/23)	17.7 (2010/9/30)	17.7 (2007/9/29)	17.8 (2011/9/25)	18.0 (2007/9/30)	18.1 (2008/9/27)
月平均気温の高い方から()	26.9 (2007/9)	26.5 (2010/9)	26.0 (2004/9)	25.8 (2005/9)	25.8 (2003/9)	25.2 (2011/9)	24.7 (2008/9)	24.6 (2009/9)	24.5 (2006/9)	///
月平均気温の低い方から()	24.5 (2006/9)	24.6 (2009/9)	24.7 (2008/9)	25.2 (2011/9)	25.8 (2005/9)	25.8 (2003/9)	26.0 (2004/9)	26.5 (2010/9)	26.9 (2007/9)	///
日最大風速・風向(m/s)	南南西 26 (2004/9/7)	南南西 20 (2005/9/7)	南 17 (2006/9/18)	南南西 17 (2004/9/29)	北北東 16.5 (2011/9/2)	北北西 16.0 (2011/9/21)	南南東 15 (2005/9/6)	南南西 15 (2004/9/8)	南南西 14.9 (2010/9/8)	北西 14 (2008/9/21)
日最大瞬間風速・風向(m/s)	北東 22.1 (2011/9/2)	北北西 21.1 (2011/9/21)	南南西 19.5 (2010/9/8)	南南西 16.5 (2010/9/7)	南南西 15.4 (2011/9/4)	北西 14.9 (2011/9/22)	北北東 14.9 (2010/9/23)	東北東 14.4 (2011/9/3)	北北東 14.4 (2009/9/19)	北北東 14.4 (2009/9/8)

統計期間：2003年1月から。但し、日最大10分間降水量及び日最大瞬間風速は2009年1月から

(関西航空地方気象台 観測課)

気象衛星観測について

1 日本の気象衛星観測

気象庁は、運輸多目的衛星（愛称：「ひまわり」）を使って、宇宙から雲などの観測を行っています。運輸多目的衛星（Multi-functional Transport Satellite:MTSAT）は、航空管制としての機能（航空ミッション）と、「静止気象衛星（Geostationary Meteorological Satellite:GMS）」シリーズの後継機としての気象観測の機能（気象ミッション）を併せ持つ静止衛星です。

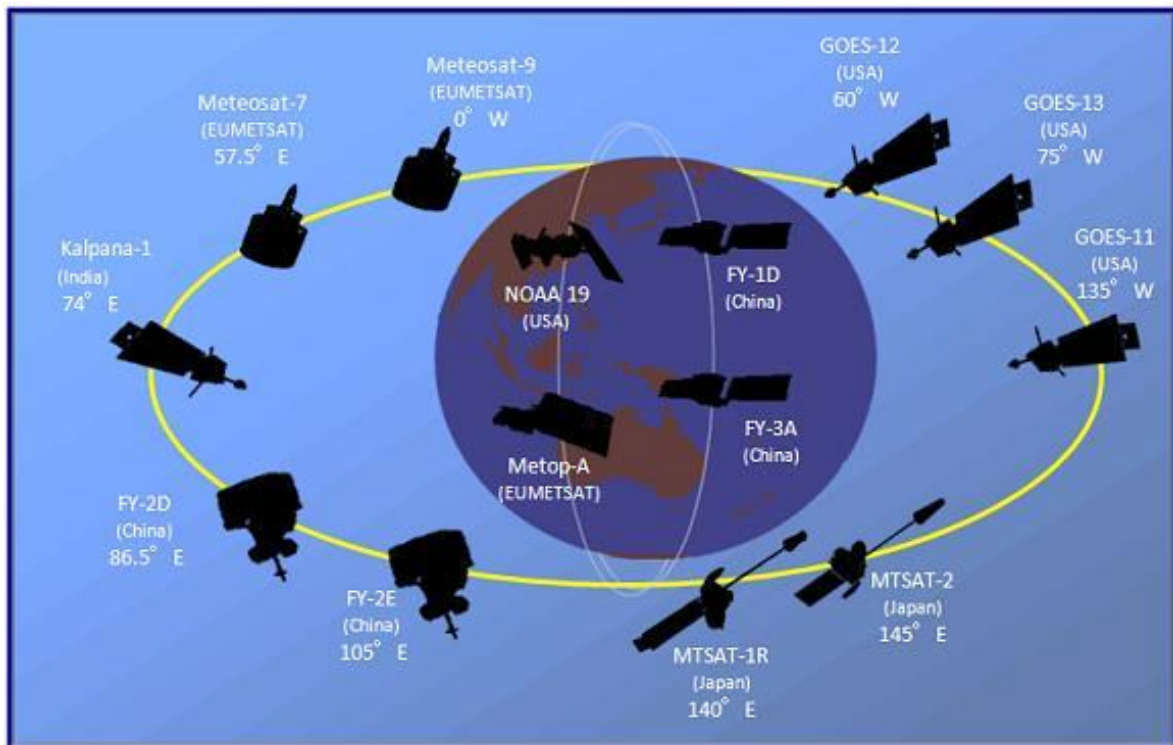
静止衛星は、赤道上約3万6千キロ上空にあり、地球の自転と同じ周期で地球の周りを回って、いつも同じ範囲を宇宙から観測していますので、台風や低気圧、前線といった気象現象を連続して観測することができます。

現在、平成22年7月1日から運用を開始した「ひまわり7号」が衛星観測を行っています。平成17年6月28日から運用していた「ひまわり6号」は、観測運用の待機状態となっており、「ひまわり7号」が障害等により長時間観測できない場合に、代替観測を行います。

2 世界の気象衛星網

世界気象機関（WMO）は、世界気象監視計画（WWW）の重要な柱として、複数の静止気象衛星と数個の極軌道気象衛星から構成される世界気象衛星観測網を展開しています。（第1図）

日本は、同観測網において、アジア・オセアニア及び西太平洋地域の観測を担い、昭和52年(1977年)以降現在に至るまで、30年以上「ひまわり」による長期的かつ安定的な観測を維持しています。



第1図 世界の気象衛星観測網

3 画像の種類

静止気象衛星が撮影する画像は大きく分けて、「赤外画像」、「可視画像」、「水蒸気画像」があります。第2図は2011年8月31日10時（日本時間）の「赤外画像」、「可視画像」、「水蒸気画像」で、日本の南にある渦巻き状の雲は、大きな災害をもたらした台風第12号です。

(1) 赤外画像

赤外画像は、雲から放射される赤外線（波長 11 ミクロン帯）を捉えた画像です。雲が放射する赤外線の強さは雲の温度により変化する特性をもっており、高い高度にあって温度の低い雲を白く表現しています。ごく低い雲や霧は、赤外画像にはほとんど写りません。

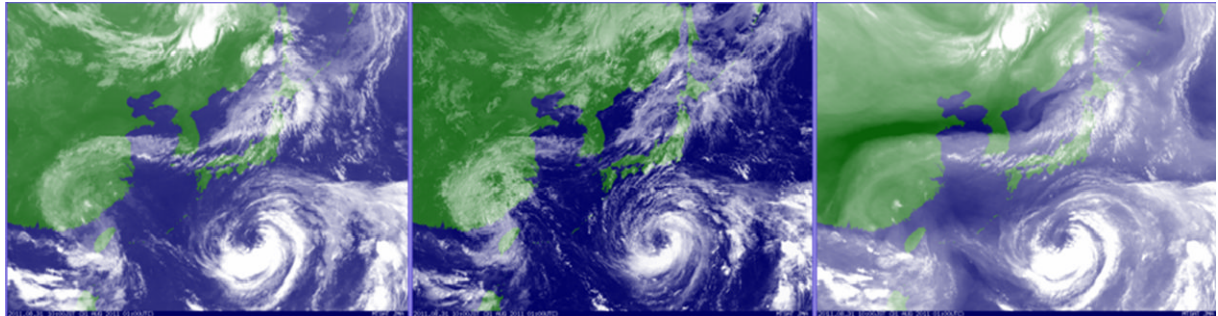
高い高度の雲には、夏の夕立や集中豪雨をもたらす積乱雲のような厚い雲もあれば、晴れた日にはるか上空に薄く現れる巻雲のような雲もあります。このため、白く写っている雲から雨が降るとは限りません。

(2) 可視画像

可視画像は、雲や地表面によって反射された太陽光を捉える画像です。雨を伴う発達した雲ほど厚みがあり、太陽光を強く反射するためより白く写るので、視覚的にわかりやすい画像です。夜間は、太陽光の反射が無いため、雲は可視画像に写りません。なお、気象庁ホームページの気象衛星画像では、強調処理を行い、朝夕や冬季など太陽光が斜めから当たって反射が弱く、暗く写る雲を見やすくしています。

(3) 水蒸気画像

水蒸気画像は赤外画像の一種で、大気中にある水蒸気と雲からの赤外放射（波長 6.8 ミクロン帯）を観測した画像です。この 6.8 ミクロン帯の赤外線は、大気中に存在する水蒸気によく吸収されると同時に、その水蒸気から放射されるという特性があります。水蒸気画像は、この特性を利用して、雲がないところでも対流圏の上・中層にあるごくわずかの水蒸気からの放射を捉え、水蒸気が多いところを白く、少ないところを黒く写るように処理を施しています。水蒸気画像からは、上空の大気の湿り具合が分かるだけでなく、複数の画像を動画として見ることで、水蒸気の流れを介して上空の大気の流れを見ることができます。



第2図 2011年8月31日10時（日本時間）
左：赤外画像 中央：可視画像 右：水蒸気画像

4 画像の撮像スケジュール

静止気象衛星は、1時間毎に全球（衛星から見える地球のすべての範囲）を、概ね30分毎に北半球（衛星から見える地球の北半分）を観測するほか、数値予報で利用する上空の風を算出するために、3時半、9時半、15時半、21時半に、南半球（衛星から見える地球の南半分）の観測を行っています。

5 特徴的な衛星画像

(1) 寒気の吹き出しによる筋状雲

第3図は2005年12月13日12時の可視画像です。日本周辺では、日本海から太平洋にかけて、筋状の雲がみられます。この筋状の雲域と大陸との距離が、平常時の寒気の流れ込みの時と比べて非常に短く、このことから、寒気の流れ込みが非常に強かったことがわかります。輪島上空500hPa（およそ5,000m上空）ではマ付36の気温を観測しました（平年ではマ付

入26±5 くらいです)。

この強い寒気と雲の列に沿って日本海から流れ込む湿潤な気流の影響で、北陸地方では山地はもとより、平野部でも多い所で一日におよそ 50cm の強い降雪がありました。

(2) 同時に日本に接近した3つの台風

第4図は2006年8月8日12時の可視画像です。日本の南の海上には、台風第7号・8号・9号があり、それぞれ日本に接近しているところを捉えた画像です。3つの台風がほぼ同時に日本に接近するという比較的珍しい事例です。

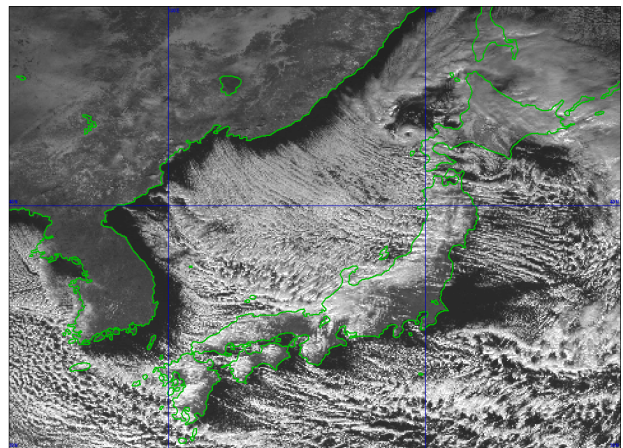
この中で、東海沖にある台風第7号は、父島近海(北緯25度付近)の比較的高緯度で発生したため発達が弱く、既にこの時刻には、活発な積乱雲が中心から東側に剥がれ衰弱期に入っていますが、8日から9日にかけて石廊崎で338mm・伊豆市天城山で368mmと東海地方や関東地方南部に大雨をもたらしました。衰弱期にある台風でも、大雨や強風により甚大な被害をもたらすことがありますので嚴重な警戒が必要です。

(3) 西日本に発生した放射霧

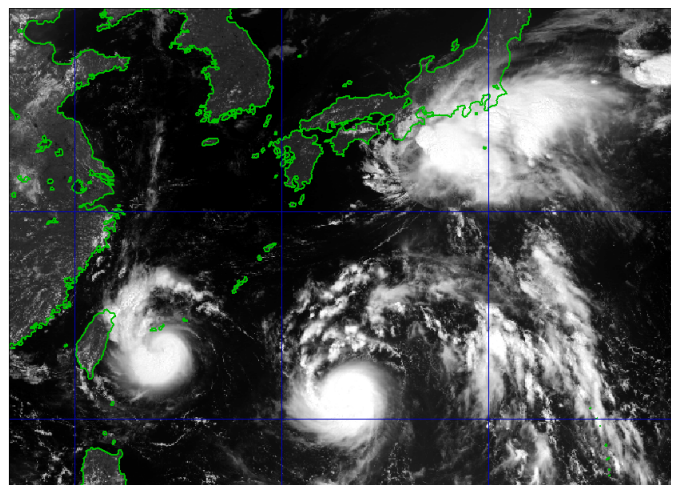
霧は地表面付近にできた雲で、水蒸気を含む空気が冷えたり、空気中の水蒸気が多くなり過ぎたりするなどの気象条件が揃うと発生します。このうち、夜から朝にかけて、晴天で風が弱いとき放射冷却によって出来る霧を放射霧と呼んでいます。

第5図は2003年11月8日10時の可視画像です。立冬の8日朝、高気圧の勢力下にあった西日本は放射冷却現象により気温が低下し、所々で霧が発生しました。霧は可視画像で灰～白色の雲域としてみられ、雲頂表面はなめらかで一様であることや、動きが比較的遅く、形状の時間変化も緩やかであることなどから、比較的容易に判定できます。

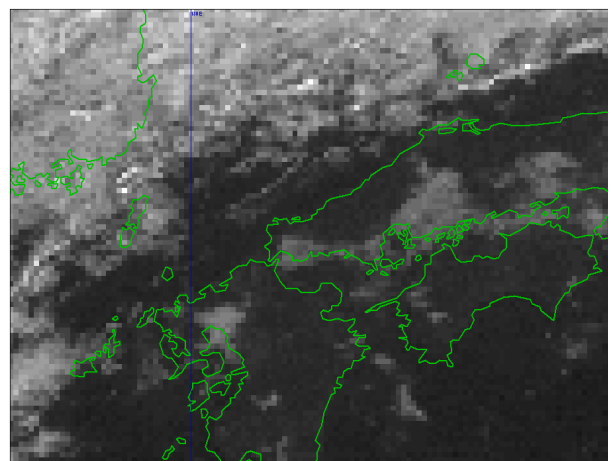
図中の、佐賀県、関門海峡付近、広島県などに広がる明灰色をしたボール状の雲域が霧で、日本海に広がる前線帯の雲頂が凸凹した雲との違いがはっきり分かります。放射霧は気温の上昇とともに薄くなる



第3図 2005年12月13日12時の可視画像



第4図 2006年8月8日12時の可視画像
東海沖海上に台風第7号、南海上には西から台風第9号、第8号がみられる

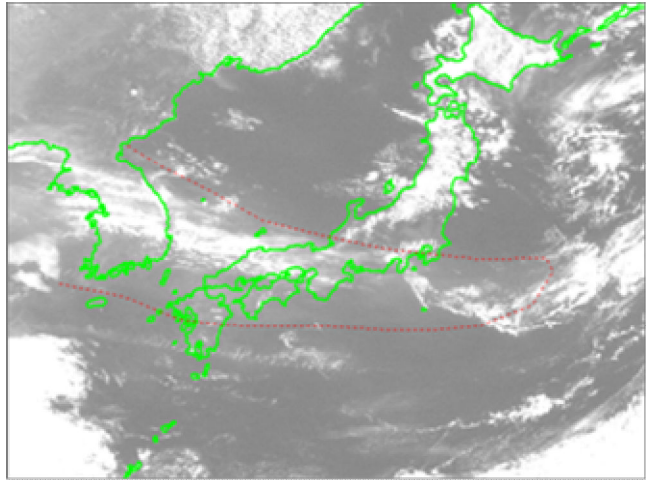


第5図 2003年11月8日10時の可視画像

のが一般的で、この日の朝、佐賀全県を覆いつくすほどの霧も昼頃にはほぼ解消しました。

(4) 春の黄砂

春になると、時々、大陸から黄砂が飛んで来るようになります。黄砂は、ゴビ砂漠・タクラマカン砂漠や中国奥地の黄土地帯で強風により舞い上がった砂塵が上空の偏西風によって運ばれ中国、朝鮮半島、日本などで、地上に降下する現象です。上空の気流にのって日本に流されてくるので、衛星画像で見えている黄砂が地上で必ず観測されるわけではありません。



第6図 2005年4月1日15時の可視画像

黄砂を気象衛星画像で観測すると、発生当初の中国大陸付近では可視画像上に明灰色の比較的明瞭な境界がありますが、日本付近に到達する頃には黄砂が拡散して薄くなるため、識別が難しくなります。

第6図は2005年4月1日15時(日本時間)の可視画像です。赤点線で示した部分が黄砂で、淡い灰色で見えており、朝鮮半島から西日本、東日本、関東の東までのびているのがわかります。この時、日本では、浜田、下関、山口、福岡、熊本、福江、宇和島で黄砂を観測しました。

6 おわりに

気象衛星観測は、春と秋に、太陽と衛星の位置関係により真夜中と正午前後に観測できない期間があります。また、気象状況、太陽からの電磁波などの影響により衛星との通信状態が悪くなった場合や、衛星の姿勢制御を行った場合に、画像が乱れることがありますのでご理解願います。

(関西航空地方気象台 予報課)

事務局からのお知らせ

<平成23年度第2回航空気象懇談会の開催について>

本年度第2回目の航空気象懇談会を、12月7日(水)に開催する予定です。後日、案内をお送りいたしますので、ぜひご参加ください。

<関空島ウェザートピックスについて>

「関空島ウェザートピックス」についてのご意見・ご要望は、連絡担当(金井)メールアドレス kanai@met.kishou.go.jp まで、メールにてお願いします。

また、MetAir 及び自動巡回ソフトのご利用を希望される場合も、こちらにご連絡いただければ担当より、折り返し連絡させていただきます。

発行日：平成23年10月7日
発行元：関西航空地方気象台
編集：航空気象懇談会事務局

航空気象観測月表

官署名 関西航空地方気象台 地点略号 RJBB

2011年 09月

日/要素	平均気圧		気温			相対湿度		最大風速		最大瞬間風速		降水量			降雪の深さの合計 cm	積雪の深さ 09h cm	大気現象
	飛行場 現地 x0.1hPa	海面 x0.1hPa	平均 x0.1	最高 x0.1	最低 x0.1	平均 %	最小 %	風向 3 6 方位	風速 kt	風向 3 6 方位	風速 kt	合計 x0.1mm	最大 1時間 x0.1mm	最大 10分間 x0.1mm			
01	10014	10023	265	290	248	87	75	40	18	40	23	575	205	75			SHRA TS
02	9914	9923	268	279	257	81	73	30	32	40	43	180	70	20			SHRA
03	9902	9911	260	274	240	85	75	60	22	60	28	755	285	70			SHRA
04	9964	9974	258	281	232	85	73	210	21	200	30	85	60	30			SHRA
05	9996	10005	258	293	234	72	56	360	14	350	21	25	20	10			SHRA
06	10033	10042	244	274	221	55	38	340	12	330	19	-	-	-			
07	10073	10083	245	287	205	57	29	150	9	150	11	-	-	-			
08	10127	10137	260	309	208	57	38	250	15	250	18	0	0	0			SHRA
09	10167	10177	282	322	253	65	50	240	13	230	16	0	0	0			SHRA
10	10182	10192	277	308	249	72	55	240	14	240	17	-	-	-			
11	10180	10190	277	307	259	76	60	220	14	220	18	-	-	-			
12	10165	10174	274	313	243	68	44	230	11	230	14	-	-	-			
13	10141	10150	279	316	252	67	42	220	13	220	17	-	-	-			
14	10131	10140	280	317	259	68	47	220	16	220	19	-	-	-			
15	10127	10137	282	319	256	66	42	230	12	230	15	-	-	-			
16	10086	10095	268	315	251	74	49	60	13	60	17	45	20	15			SHRA
17	10076	10085	264	295	251	84	72	200	16	190	20	55	35	20			SHRA
18	10086	10096	272	313	248	77	61	230	14	220	17	-	-	-			
19	10089	10098	262	307	219	73	53	40	20	30	27	280	260	85			SHRA TS
20	10035	10045	229	237	218	89	84	60	19	60	23	790	215	80			SHRA TS
21	9917	9926	237	262	217	80	59	340	31	350	41	785	255	65			SHRA
22	10041	10051	218	248	193	61	47	290	23	300	29	0	0	0			SHRA
23	10124	10133	205	237	177	49	38	20	17	40	23	-	-	-			
24	10186	10195	210	242	172	52	36	30	14	30	20	-	-	-			
25	10203	10213	220	250	178	62	51	50	11	60	13	-	-	-			
26	10179	10189	218	234	202	67	56	30	12	30	17	0	0	0			RA
27	10161	10170	230	270	192	55	30	40	15	40	21	-	-	-			
28	10162	10172	229	268	185	59	35	160	8	270	12	-	-	-			
29	10141	10150	241	281	200	63	43	180	19	190	24	0	0	0			SHRA
30	10100	10110	245	273	222	72	55	200	23	200	27	15	5	5			SHRA

上旬	10037	10047	262	292	235	72						1620					
中旬	10112	10121	269	304	246	74						1170					
下旬	10121	10131	225	257	194	62						800					
月	10090	10100	252	284	225	69						3590					
極値				322	172		29	30	32	40	43	790	285	85			
起日				9	24		7		2		2	20	3	19			

気温 日数							最大風速階級別日数 kt				日降水量階級別日数 mm						降雪の深さの日合計階級別日数 cm							
日最低 < 0.0	日平均 < 0.0	日最高 < 0.0	日最低 ≥25.0	日平均 ≥25.0	日最高 ≥25.0	日最高 ≥30.0	≥20	≥30	≥40	≥50	≥ 0.0	≥ 1.0	≥ 5.0	≥ 10.0	≥ 30.0	≥ 50.0	≥ 70.0	≥100.0	≥ 0	≥ 5	≥ 10	≥ 20	≥ 50	≥100
0	0	0	8	17	25	11	7	2	0	0	16	11	8	6	4	4	3	0						

日最深積雪階級別日数 cm							視程継続時間 分				RVR継続時間 分				最低雲高継続時間 分					大気現象出現日数					
≥ 0	≥ 5	≥ 10	≥ 20	≥ 50	≥100	≥200	m <5000	m <3200	m <1600	m <1600	m <800	m <600	m <400	m <200	m <100	ft <1500	ft <1000	ft <500	ft <300	ft <200	ft <100	雷	霧	雪	
							1475	592	90	474	12	0	0	0	0	258	0	0	0	0	0	0	3	0	0

特記事項

関空島 WEATHER TOPICS で使用する航空気象に関する略語等の解説

1 本文中で使用する略語等の定義

VIS: 全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程(卓越視程)を(m)で表す。

CIG: 雲量が5/8以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを(ft)で表す。

RVR: 滑走路視距離計で観測した滑走路視距離を(m)で表す。

風: RWY06Rに設置した観測装置の値(関西国際空港の代表風)を、風向を真方位(°)で風速を(kt)で表す。

風配図は、R-WY 06Rの、正時から10分毎の10分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm(静穏)は、10分間平均風速に関して、その値が0.4kt(0.2m/s)以下の場合をいう。

ガストは、平均風速とその該当時間内の最大瞬間風速との差をいう。

ウィンドシアア: 鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。

平年値: アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値(1981-2010)を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2010年(但し、日最大10分間降水量及び日最大瞬間風は2009年から)。

2 気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島のA-RWY(3500m)とB-RWY(4000m)周辺に配置した屋外観測装置(第1図)と、当台観測課(航空庁舎ペントハウス)に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO報として10分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR報、SPECI報)で配信する。

航空観測気象報で通報する風は「06R」の観測値である。障害等で「06R」が使用できない時は「06L、24L、24R」の順に代用して通報し、RMKに使用した風向風速計名を記載する。(例: WIND BY EQPT/06L)

3 航空気象観測月表の解説資料

平均気圧: 毎正時の観測値の平均を、ヘクトパスカル(hPa)の1/10位まで、小数点を省いて記載。

飛行場現地気圧(QFE)は、飛行場の標点から3mの高さに合わせた気圧値。

海面気圧(QFF)は、平均海面上の気圧値。

気温: 摂氏(°)の1/10位まで、小数点を省いて記載(0未満の場合は、「-」を前置)。

日平均気温は、毎正時の観測値の平均を記載。

相対湿度: パーセント(%)で記載。

日平均相対湿度は、毎正時の観測値の平均を記載。

最大風速及び最大瞬間風速: 風速はノット(kt)単位、風向は10度(°)間隔で発生時の起時の値を記載。

降水量: ミリメートル(mm)の1/10位まで0.5mm間隔で、小数点を省いて記載。

日降水量は、毎正時の観測値の合計を記載。

最大1時間及び最大10分間は、任意の1時間並びに10分間の最大値を記載。

降雪の深さ: 09時、15時及び21時の、前回の観測時刻以降に降った雪の深さを、センチメートル(cm)で記載。

降雪の深さの合計は、09時、15時及び21時の観測値の合計を記載。

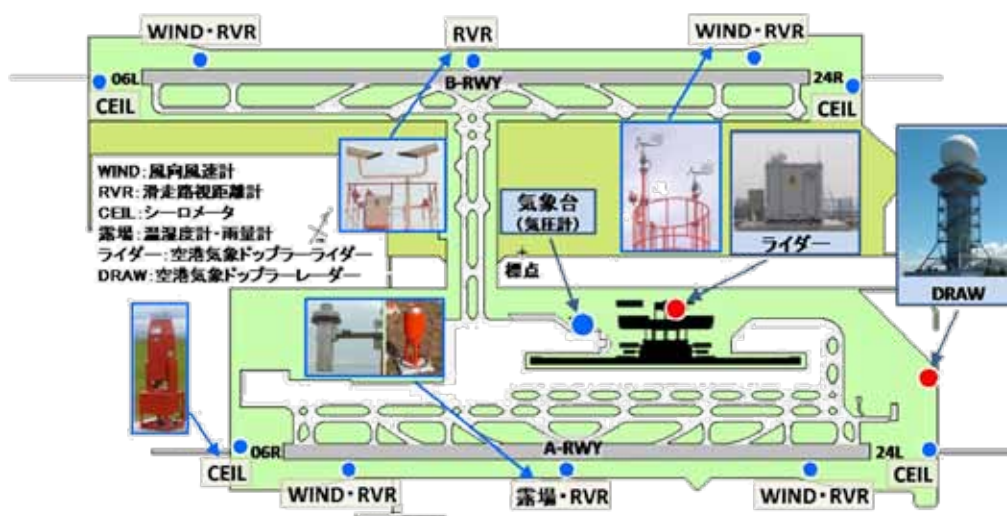
積雪の深さ: 9時の積雪の深さをセンチメートル(cm)で記載。

積雪の深さが1cmに満たない場合は0cmと記載。積雪は、飛行場の半分以上が雪などの固形降水(暖後期のひょうを除く)に覆われている場合を「積雪あり」とする。

大気現象: 大気現象を略号により記載(略号の意味は、第1表のとおり)。

視程・RVR及び最低雲高継続時間: 欄の区分に該当する値未満であった時間の合計を記載。

継続時間は、METAR・SPECIから該当する値を引用して算出する。



第1図 関空島内の気象観測機器配置状況

第1表 大気現象と略号

大気現象	略号
雨	RA
しゅう雨	SHRA
着水性の降水	FZRA
着水性の霧雨	FZDZ
霧雨	DZ
雪	SN
しゅう雪	SHSN
みぞれ	RASN
しゅう雨性のみぞれ	SHRASN
霧雪	SG
凍雨	PL
雪あられ/氷あられ	SHGS
ひょう	SHGR
霧	FG
煙	FU
黄砂	SA
雷電	TS